

「先進医療」の最新情報～4月から健康保険対象が増える

1月11日に厚生労働省から、「平成29年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告」が出ました。毎年1月中旬頃に公表される、先進医療の現状を確認するのに興味深いデータです。

●有効性・安全性を確認中の医療

先進医療とは、「厚生労働大臣が定める高度の医療技術を用いた療養その他の療養であって、(健康保険の)療養の給付の対象とすべきものであるか否かについて、適正な医療の効率的な提供を図る観点から評価を行うことが必要な療養」(健康保険法第63条第2項第3号)。つまり、将来的に健康保険対象の医療として認めるかどうかの有効性・安全性を確認する、「評価療養」のひとつです。

先進医療にはAとBがあり、承認済みの医薬品や医療機器を使用する技術、また未承認であっても人体への影響が極めて小さい技術は「先進医療A」、未承認の医薬品や医療機器を使用する場合など(Aより安全性が低いと考えられる)は「先進医療B」と振り分けられます。

平成29年6月30日時点の先進医療技術は102種類で、Aが35種類、Bが67種類でした。年間実施件数はAが3万1893件、Bが1091件、実施医療機関数はそれぞれ761機関、241機関となっています(複数実施

している場合1施設と計上)。下表は、実施件数が比較的多い先進医療技術を取り上げています。

●保険診療が認められる粒子線治療

自己負担が高額というイメージの強い先進医療ですが、下表を見てもわかるように、数百万円かかるものから数千円のものまでまちまち。がんの先進医療で知られる陽子線治療と重粒子線治療は300万円前後かかりますが、2016年4月から、陽子線治療は小児がん、重粒子線治療は手術による切除が難しい骨軟部腫瘍について、健康保険対象の医療となっています。これらのがんについては、有効性・安全性が認められたということになります。

先進医療の保険導入に向けた検討がなされるのは、2年に1回の診療報酬改定時となっています。今年はその年にあたり、4月から9種類の先進医療が保険診療に導入されるようです。

陽子線治療、重粒子線治療についても保険診療の範囲が広がり、切除が難しい骨軟部腫瘍に対して陽子線治療が、また頭頸部悪性腫瘍(口腔・咽喉頭の扁平上皮がんを除く)と前立腺がんに対して陽子線治療・重粒子線治療が対象となります。既存の放射線治療と比較しても、十分または同等の効果があるという科学的根

クルーセミナー 2/16(金)開催

2ヶ月連続住宅ローンセミナー「新規借入編」
安心でおトクな住宅ローンの借り方!

講師: 深田晶恵

[参加費]1000円 [会場]中野サンプラザ

※詳細・お申込みはHPまたはお電話で

拠から判断された結果です。

それ以外のがんについては、現時点では有効とのエビデンスが出ていないようですが、将来的に効果が確認されるかもしれません。

●保険金が出るから受ける?

高額の先進医療を受けることになった場合に備え、医療保険やがん保険に「先進医療特約」を付けている方も多いと思います。この特約は保険料も100円程度とリーズナブルなので、つけておいてもいいでしょう。

しかし、保険金が出るからと、先進医療に誘導される可能性はあります。下表にもある白内障の手術「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」は、実施医療機関数、患者数がダントツに多いですが、医療機関から先進医療の保障はあるか尋ねられることがあると聞きます。

実施件数は多くても、現時点では有効との科学的根拠が十分でないと言われています。白内障の手術には健康保険対象の「単焦点眼内レンズ」もあります。先進医療の実際をよく知ったうえで、選択の判断をしたいものです。

(クルー 浅田里花)

【平成29年6月30日時点で実施されていた先進医療の例 (A=先進医療A、B=先進医療B)】

技術名	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件当たりの先進医療費用(円)	実施医療機関数
(A) 陽子線治療	12.6	2,319	2,765,086	12
(A) 重粒子線治療	7.0	1,558	3,149,172	5
(A) 歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	240	65,870	15
(A) EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	58.2	255	14,607	6
(A) 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	1.2	14,433	581,224	555
(A) 前眼部三次元画像解析	0.3	11,595	3,484	101
(B) 経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	5.4	109	153,312	8
(B) 切除支援のための気管支鏡下肺マーキング法	9.3	154	17,113	17